

令和 5年 8月 3日

東員町議会

大谷勝治 様

東員町議会

片松雅弘

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5年 8月 1日 (火) ～ 8月 2日 (水)【 2日間】
研修(視察)先	京都市舞鶴市役所 奈良王子町 美しヶ丘集会所
目的(テーマ等)	住民同士の新しい移動について・グリーンスローモビリティについて
参加議員名 (複数の場合)	大谷勝治・片松雅弘・南部豊・山崎まゆみ・大崎昭一
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

現在東員町ではオレンジバスによるバスによる外出支援を行っていますが、今後更に高齢化による、きめ細かい移動手段や外出支援が必要となってくると考えられます。

バス停までいけない・バス停から重い荷物をもって歩けない人が増えるなど、東員町独自の急激な高齢化が進むと思います。

他の市町村では、移動手段の実証運行を含む様々な取組みをされています。今回は「meemo」というアプリを使い住民同士で住民の所有する自動車を送り迎えをして移動サービスを行っている京都市舞鶴市と電動カートを使用し、自治会が主体となってお出掛け支援をしている奈良市王子町のみしヶ丘自治会さんに視察研修に行ってきました。どちらも大きな企業の支援を受けながら行っている事業でした。

舞鶴市の「meemo サービス～公共交通を補完する新しい移動サービス」

舞鶴市は大きな市で、軸となる幹線は鉄道（JR,丹鉄）京都交通バス（①東西循環線、高浜線、大江線）と幹線に通じる支線として京都交通バス（①以外の路線）と自主運行バス、そしてそこに支援へのアクセスする「meemo」という位置づけになります。

オムロンソーシャルソリューションズが開発したスマートホンアプリ「meemo」新しいIT技術を活用して、住民同士の送迎マッチングを実施することで外出機会を創出するとともに、既存の交通機関への役割の補完を目指しています。

また地域における住民同士の「共助」の役割もしています。

利用料金は、道路運送方における許可または登録をしない「無償運送」を行っています。とても画期的なシステムですが、お手伝いしていただける人の確保や年齢制限などの難しきやスマートホンを利用することができない人も多く、アプリによるマッチングができずに、電話によるオペレーターの割合が多いこと、運営委託費やアプリ使用料が高額なことなど課題も多くあります。

王子町のみしヶ丘自治会による電動カートによる「グリーンスローモビリティ」

みしヶ丘は丘陵地にある 1400 世帯 3600 人が住んでいる一戸建て住宅が並ぶ、いわゆる笹尾・城山地区に似た坂の多い住宅街です。まず 1400 世帯を 1 つの自治会でまとめてられているのもびっくりですが、更に高齢者が住民の半数とは驚きです。

高齢化が進むと、なかなかボランティアの人が集まりませんが、みしヶ丘自治会は大変協力的な人材に溢れ、自治会長さんを含めスタッフの皆さんの熱意を強く感じました。グリーンスローモビリティとは時速 20 キロメートル未満で行動を走ることができる電動車を活用した移動サービスのことです。

この電動カートを月・水・金・土の午前 2 時間、午後 2 時間を定期運行して、雨天の場合は、見通しが悪く危険なため運行を前面中止しています。

電動カートは、ヤマハ発動機株式会社さんと連携し実証実験として自治体とリース契約をして、リース代金は自治体が負担し、運行にかかる任意保険などは自治会が負担しています

住民による、スタッフや運転手・同乗のサポーターさんは無償ボランティアで行っていますが、将来への人材確保や担い手不足など不安点もお話されました。

団地特有の立地では有効的で自動運転にも発展でき東員町でも笹尾・城山地区ではすぐにでも活用可能なシステムだと思います。

東員町でも、すぐに何かしらの移動方法や外出支援の方法を取り入れていかなければならないと思います。実際に現地で視察し、必要性を感じました。

とても有意義な研修でした。